

平成21年度上海港・大阪港技術交流

平成 21 年 10 月 21 日（水）～22 日（木）に大阪港の友好港である上海市から、上海市交通輸送・港口管理局の陳道熙副総工程師を団長とする技術交流団をお迎えし、平成 21 年度の技術交流を実施しました。

大阪市と上海市は、昭和 49 年（1974 年）に友好都市提携を行い、今年は提携 35 周年という節目の年を迎え、より活発な交流が行われています。大阪港は昭和 56 年（1981 年）、上海港と友好港提携を行い、親善使節団の相互派遣をはじめ、港湾技術交流、姉妹港会議の開催等を通じて友好関係を深めてきました。現在では、大阪—上海間を結ぶ国際フェリーが週 2 便就航するなど、友好交流の輪は、物流はもとより人々の相互訪問へと広がっています。

上海市交通輸送・港口管理局技術交流団一行は、21 日午後に川本港湾局長を表敬訪問し、大阪港の概要と現状の説明を受けました。22 日午前には、「港湾区域の埋立に伴う環境対策及び浚渫土砂等の廃棄物の処分について」をテーマとした技術交流（意見交換会）を行いました。松井環境整備担当からフェニックス事業や大阪港での環境への取り組みなどが説明されると、活発な質疑応答が行われました。とりわけ、平成 17 年（2005 年）12 月に供用開始されたばかりの洋山深水港区に

駐在の王晓龍 上海港港政管理センター監測検査科副科長からは熱心な質問が投げかけられており、環境対策に対する関心の高さが伺われました。22 日午後からはオズ岸壁に係留中の帆船「あこがれ」の内部を見学しながらセイル・トレーニングなど大阪市の取り組みについての説明を受けた後、広報船「夢咲」に乗船し、先般、廃棄物の受け入れを開始した新島などを海上から視察しました。



技術交流団一行の滞在は 1 泊 2 日と非常にタイトなスケジュールでしたが、活発な意見交換が行われるなど両港に実りの多い交流となりました。今後も上海港との友好交流の絆がますます深まるように努めてまいりたいと思います。

